ティオフィラス　アサモア先生を送る言葉

経営学部教授　石　積　　勝

アサモアさん、もう二年近く前になります。大学から僕を平塚まで車で送ってくれた時ですね。「時々、目の調子が悪くて平衡感覚をなくすんだよね。こんど医者に行くよ」、それから間もなくです。結局、手術をし、思ったより大きな脳の腫瘍。それからずっと闘病生活で、さぞ不自由だったと思います。二人のお子さんも本当に献身的な看病の日々でしたね。

昨年の卒業式、無理をおして車いすで出席されたこと、本当によかったですね。今日も何人か、その最後のゼミ生が出席していますよ。どうしてもアサモアゼミを一年でも二年でも存続させたいと、学部執行部に直訴したゼミ生たちも来ていますよ。専門分野も全く違う僕が今、ピンチヒッターで引き継いでいます。そして、じつはびっくりしています。アサモアさんが超人気教師だということは知っていました。でも実際に代理で始めてみて、そのゼミの学生がみな本気で、本当に密度濃く、学生が自ら動く、まさしくこれぞ「ゼミ」というものだということが、よくわかりました。何十年もの間のアサモアさんの努力と熱意の賜物だと思います。

アサモアさんは学部の運営の仕事にも全力投球でした。学部の、あるいは大学全体の国際交流・国際教育の責任者としてのアサモアさんの仕事はまさにプロの仕事でした。一緒に仕事をした人々はみな、それを痛切に感じています。海外大学の担当者からも心にしみる弔辞が届いています。

アサモアさん、アサモアさんが深くキリスト教に影響されていたこと、経歴を見て、今日、初めてはっきりとわかりました。ティオ・アサモアのティオは、ギリシャ語の「神」ゴッド。そういえば、日本語の神学、神の学、これにあたる英語は、ティオロジーでしたね。アサモアさんの超人的な、飽くなき献身の謎が解けました。理由がわかりました。アサモアさんにとって、大学での仕事はたんなるワークでもなく、ジョブでもなく、もちろんレイバー、労働でもなく、まさしくコーリングだったのですね。コーリング、まさしく天職、神が、天が、アサモアさんを天から呼んで、「お前はこのミッションに全身全霊をささげよ」と命じた仕事、天職だったのですね。損得勘定でもなく、世間的な名誉でもなく、神の命を受けて現世で全力を尽くす。隣人に貢献する。これだったのですね。

アサモアさんには、今度は違うコーリングが用意されたようですね。神が今度は天国へコーリング、まさしく「おぼしめされた」思召された、ということですね。僕は確信します。「あなたは良くやった。私の与えたコーリングを充分やりつくした。だから今度は私のもとにコールした。呼び寄せた。天国でゆっくりしながら後輩たちを温かく見守ろう」と、そう神はいってくれていると確信します。アサモアさん。残された私たちを遠くから引き続き温かく見守ってください。

註　本稿は「アサモア先生を偲ぶ会」（2019年7月28日）の「弔辞」を一部省略の上、掲載している